



伊藤正信 議員

鍋田支所、農村環境改善センター等の統廃合を

問

鍋田支所、農村環境改善センター（以下「センター」）などの統廃合等を聞く。

(1) 南部地域の拠点（づくり）を、統廃合の大きな柱にすべきではないか。

(2) 安全、安心の米づくり地域の指定、市のブランド品をつくる地域（づくり）には、今の鍋田支所の業務だけではなく、港開発、農業基盤づくりの指導強化をする総合センター化で、地域の活力を生むべきではないか。

補助事業で非常に難しい

答 開発部長

(1) センターは、（制約のある国・県）補助事業（建設）にまつわる諸条件がある。

統廃合は今の段階では非常に難しいと思う。

答 市長

(2) 市の発展のためには南部地域の開発が急務である。土地利用、農業振興地域の施策を計画的に進めていきたい。

（それを）市総合計画、都市計画マスタープランの中で具体化していかなければと思っています。

遊休地に目的、方向性があるか

問

市の遊休地活用について聞く。

(1) 市にどれくらいの場合と面積があるのか。

(2) 目的と方向性があるのか。

それぞれ目的がある

答 副市長

(1) 現在12カ所で面積は1万9、163㎡である。

(2) **答** 市長
それぞれ取得年月日が

▲ 鍋田支所（写真左）と農村環境改善センター（写真右）



違い、目的がある。

市有地をどのタイミングで活用方法を考えていくかは、より有効活用ができるよう議員にも示し、議論していきたい。

合併後に看板が変わっていない

問

合併してから今日まで、看板（表示）がなかなか変わらない。もう、きっちりやる時期ではないか。

全庁を挙げて対応していく

答 総務部長

合併前の弥富町、十四山村という立て看板は確かに残っている。

以前はテープ等で直していたが、それではがれていく状況なので、撤去と取り換えを基本とし、全庁挙げて対処していく。